

## 細江カトリック教会だより

10月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

## コロナと共に生きる

あの恐ろしいまでの暑さの中で、コロナに加えて熱中症対策も無視できなかった日々が嘘のように、すっかり秋の気配が漂うようになりました。といって、コロナの心配が去ったわけではありません。教会も幼稚園も最大限の感染防止の対策を施しながら、平常とはほど遠い活動を細々と続けています。冬に向かうこの時期、今度はインフルエンザ予防も意識しなければなりません。感染症が広がり、あらゆる活動が休止したり、縮小したりし始めた時期、教会は、感染症の一日も早い終息を願って祈りを捧げました。しかし、終息の兆しが見えない今、わたしたちは、終息を願うよりも、コロナ禍の中で、くじけずに生き抜く知恵と忍耐を祈ることが必要になってきました。

「コロナと共に生きる」、いつからか、そんな表現が聞かれるようになりました。それは決してあきらめやなげやりな態度ではありません。むしろ、避けられない事態を冷静に受け止め、そこで求められる対策を十分講じながら、今、取り組むべき課題に向き合って生きることでしょう。それは、今、はじめて経験することではなく、人間生きる限り、必ず身に着けなければならない姿勢だと言ってよいかもしれません。突然事故や災害に遭ったとき、病気や障がいなどで不自由な生き方を余儀なくされたとき、自分の落ち度で失敗や問題を引き起こしてしまったとき、人間が必ず担ってゆかなければならない軛です。そんな状況の中で、自分自身の窮状にこ

だわり続けるのではなく、今、できることに目を向け、周囲の人々の必要に快く応えてゆける恵みを願いましょう。



先日、連休を利用して、国東半島への旅行に同行しました。国東と言えば、あの『世界を歩いた伴天連』、とチースリック神父が紹介したペトロ岐部の育った地です。30年ぶりに訪れた国見町の「ペトロ・カスイ岐部神父記念公園」はすっかり整備され、船越保武氏の手による神父の像の前で、しばし、文字通り自分の足で歩いたローマへの厳しい道程、迫害下の日本に戻り、潜伏先の東北水沢で捕縛され、江戸で最期を迎えた神父の波瀾万丈の生涯を思い起こしました。なぜ、一人ローマまで歩いてゆくことを決意したのか、なぜ、年来の夢がかなって司祭、そして、イエズス会への入会が叶いながらも、迫害の日本に戻る決心をしたのか、なぜ、浪人の姿に身をやつして東北にまで赴き、信徒の世話をしようとしたのか、かつて抱いた疑問がよみがえってきました。今年11月15日、司祭叙階400周年を迎える岐部神父は、現代に生きるわたしたちに何を語っているのでしょうか。

当時とは比較できないほど多くの自由を与えられ、物質的にも、精神的にも豊かな生活を送る中で、あの十字架を担われた主に従うとは何なのか、コロナ禍に生きるわたしたちはあらためて問われているのではないのでしょうか。



作道 宗三 神父

りながら、日本語を勉強し続けたいと思います。ただ、それだけでなく、日本の教会や、社会も深く知りたいです。毎日、幼稚園の子供や信者さんたちなどと出会いを通じて、私は神について経験を一層深め、イエズス会のミッションをよく知り、そして自分の召命も成長することができるようになると思います。

これからもご指導よろしく願いいたします。ありがとうございます。

### 神学生の紹介



### 初めまして！

私は神学生のアンと申します。フルネームはグエン・タン・アンです。ベトナムから来ました。2018年に来日して、東京で2年間ずっと日本語を勉強していました。今年の7月に日本語の勉強が終わった後で、中間期生として細江教会で体験することになりました。

2年間日本語を勉強していましたが、なかなか自分の日本語力が足りません。それで、中間期生として、仕事をや

### 地区だより V

2月中頃、肩の痛みが激しく6ヶ月のリハビリをすることになりました。右肩によく頑張ったねと労ってやりました。この間、我が身のことだけに専念しようと思ってましたら、新型コロナウイルスの感染が世界中に広まり、梅雨時は大雨洪水で多大な被害に毎日不安でした。

作道神父様の「祈りを深める」勉強会時のノートを開いてみました。祈る事なしに実感することができない一節に共感しました。私の祈りはつたない祈りですが、心配するよりは祈ろうが信条です。リハビリで教会のお手伝いもできない私に励ましを下さり嬉しかったです。大きな教会だけに地区割の良さを実感しました。「祈りを深める」のお話に参加できたのは、神さまのお計らいだったのか、この自粛で生かされ感謝です。コロナの終息を願いながら信者の皆さまとご一緒にミサに与れる日を切に願っています。



後田地区 K. K

## 社会教説 9/13

コロナ禍の社会教説。想像以上に参加者が少なく、とても残念でした。

今回は、9月26日に司祭叙階し東ティモールに派遣されるイエズス会の村山兵衛助祭のお話でした。中間期の2年間東ティモールの学校で先生をされた時のこと、東ティモールの現状などスライドやビデオを通してお話してくださいました。



これまで林神父さまより東ティモール独立までの話を聞いたり、実際に独立のために闘い、目の前で仲間が亡くなるという体験をした方にもお話を聞いた事があります。そのご家族とは、とても仲良くしていただいております。時々東ティモールのとても美しい景色の映像を送ってくださいます。それを見るたびに、いつか東ティモールに行ってみたいなあという思いを抱いていました。観光気分です。今回村山助祭の話を聞き、自分の浅はかさに愕然としました。私は上っ面しか見てなかったのです。そのご家族は、大変な時代を乗り越え、今の東ティモールをより良くするために働いている方です。が、東ティモールの中ではごく一部の特権階級の方だったのです。こんなことに今頃気づくなんて。東ティモールにきちんと向き合っていなかったということです。ちょっと考えれば分かることです。闘いにより中年層、高年層が少ない

ということは、若年層に技術や経験が引き継がれていない。唯一の産業の農業もままならないでしょう。いろいろな形で支援が必要でしょう。そのためには、まず東ティモールの現状を知り、何が必要かを考え、その中で私たちにできることから取り組みたい。小さなことからコツコツと。一人では難しいので、学習会など開き一緒に取り組むことができればと思います。どなたかご一緒しませんか？

林 裕子

\*写真は社会教説の講師 村山兵衛助祭



**村山兵衛助祭は、9月26日(土)  
東京イグナチオ教会に於いて、菊池功  
東京大司教さまの司式により、司祭に  
叙階されました。(拍手!!)**

**お慶びを申し上げます。細江教会一  
同、東ティモールでの活躍とご健康を  
心からお祈りいたします。**

### 敬老の日によせて



「老いを楽しむ」

今年77歳を迎え、はじめて教会の敬老会に仲間入りさせて頂くことになりました。

両親、家族、そして、出会いを恵まれた多くの方々のお世話になりながらの

77年間です。すべての方々に感謝しています。これから先の人生を、老いを楽しみながら送れたらと願っています。

大先輩の土橋さんも100歳の今を施設の中でお元気に過ごされていると聞き及んでいます。素晴らしいことです。若輩の当方ではありますが、耳が遠くなり始めたり視力が落ちていくなど、老いの現象に苦笑しております。

スマホの扱いや、スーパー、コンビニでのレジの打ち方など戸惑うことばかりですが、若い方々が親切に教えてくださり、本当にありがたいことです。

「すみません」、「ありがとうございます」、この二つの言葉を忘れないようにして、大先輩の100歳をお手本にして、老いを楽しみたいと思っています。

大住 昭夫



\* 百歳のご長寿を迎えた土橋キヨ子さん

### 「敬老の祝福を受ける年を迎えて」

子どもの頃、村の船頭さんという童謡で、「村の渡しの船頭さんは今年六十のお爺さん……」という歌詞に、生意気にも60歳って生きていて何の楽しいことがあるのかなあと感じていました。それから何十年、紆余曲折いろんな事がありましたが、生きるという意味、年を重ねることの恵みにやっと気付くことができるようになりました。何よ

りも、私の人生で一番の出来事はイエス・キリストに出会えたこと。コロナ禍の中、あるべき姿は一体何なのか改めて日々問い直していきたいと切に思うこの頃です。謙虚に、でもおかしいことに声を上げる勇気も持ちたいと思います。

アンナ・アナスターシャ 上田 洋子



### 日本語の分かち合い！



外国人留学生や技能実習生の日本語を少しでもレベルアップして、これからの生活や働きでの向上ができるようにと、会話教室を始めました。

まずは、ゆっくりと「あいうえお」の発音練習から始まり、時には簡単なフレーズの聖歌を歌ったり、小さなグループに分かれて一人ひとりが話し合い、ペアになって文章をゆっくりと何回も繰り返し練習。文章の分かる方もいますが、小3の国語でも難しい方がいる。それに、スムーズに言葉が出ない方もいるので、みんな気長に耳を傾ける。また、「こんな時はどうするのですか？」という質問や悩みに、演技も交えて応える。

ボランティアの先生たちも学習の準備をして、この青年たちに負けじと楽しい会話教室になれるよう ディーン神父さま・アン神学生の指導の下、一緒に頑張っています。

皆さまのお力添えと応援をお願いします。